

岡山短期大学

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 原田学園
理事長 原田 博史
学 長 原田 博史
A L O 白神 厚子
開設年月日 昭和 26 年 4 月 1 日
所在地 岡山県倉敷市有城 787

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
幼児教育		150
	合 計	150

専攻科および入学定員

専攻	入学定員
幼児教育	10
合 計	10

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

岡山短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

岡山短期大学の設置母体である学校法人原田学園は、昭和 25 年に認可を受け、現在、短期大学の他、岡山学院大学を有する学校法人である。当該短期大学は、昭和 26 年に設置認可を受け、幼児教育学科を設置している。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は、大正 13 年の学園創設以来継承している教育三綱領「信念貫徹、自律創生、共存共栄」を建学の精神として今日に至っている。平成 12 年 4 月には男女共学化に伴い、教育理念の一部を見直し、学生一人ひとりが強い信念を持ち、それぞれが志した学習目標の達成を目指し、修得した知識・技能及び資格を生かした進路を確実に得ることが出来るよう導くとともに、短期大学及び社会の発展に寄与する人材を育成することを明確に打ち出し、幼稚園教諭、保育士の養成という具体的な教育目標を設定している。これらはウェブサイトや学生募集要項、学生のしおり等に明示され、学内外に広く情報提供されている。

教育の内容、教育課程については、教育理念のもと、保育者養成を目的とする教育課程が体系的に編成されている。図書館司書、社会教育主事の資格取得も可能であり、多くの資格取得を目指す学生のニーズに応えるものとなっている。授業内容等の改善として、授業科目受講後のアンケート調査やファカルティ・ディベロップメント(FD)ワークショップを開催することにより、次年度の改善に繋げている。また、特別専任教員というシステムを設け、経験豊富な教員や実習担当の専任事務職員の配置により、学生への指導を充実させるとともに、学生相談室を設置し、専任カウンセラーを配置している。さらに、本年度特色ある教育支援プログラム(特色 GP)にも採用された教育支援プログラムを積極的に推

進している。教育の達成度を確認する取り組みとして、毎年、就職担当教員が卒業生の就職した保育所・幼稚園を訪問して、意見を聴取するとともに、卒業生を対象とした自分の能力に対する評価のアンケート調査を行っている。

学生支援に関しては、入学後の 1 週間をオリエンテーション期間とし、学科・教員の紹介、履修案内等、入学者に対して行き届いた配慮がなされている。学生生活、学習上のサポート、進路支援等を個々の学生に対して行うメンター制度が導入されており、行き届いた学生支援が行われている。就職支援のための組織が整備され、高い専門職への就職率を達成している。

研究活動としては、全学体制で取り組んできた「人間関係力養成支援プログラム」が、平成 17 年度特色 GP に採択されたことは注目すべき実績として特筆される。教員の研究活動についても、教員研究費規程、教員研究旅費規程が整備されており、個人研究室の設置、毎年の研究紀要の発行など研究活動の場が保障されている。また週 1 日の自宅研究日が確保されるとともに、夏期自宅研修期間 1 ヶ月の取得が認められており、研究活動の活性化のための条件整備は概ね良好である。

社会的活動としては、公開講座等を地域社会に対して開き、また、オペレッタの保育園への出張公演や倉敷キンダーフェスティバルへの参加は、ますます充実したものになることが期待できる。保育者養成という教育目的とリンクさせた形で、学生が地域社会に貢献する活動に積極的に取り組むことを推進している。

学校法人及び短期大学の管理運営は全般に適切に行われ、その体制は確立している。理事長のリーダーシップのもと、理事会は意思決定機関として適切に運営されている。また、短期大学の運営全般にわたって、学長のリーダーシップは遺憾なく発揮され、教育研究上の審議機関としての教授会、学科会議の運営も概ね適切に行われている。事務組織の業務も適切に行われ、人事管理も適切である。

学校法人及び短期大学の財務運営は適切に行われている。経営の状況について、収支の改善が今後の課題であるが、現在のところ余裕資金が健全に維持されている。施設設備の整備、管理状況も適切である。

自己点検・評価の実施体制に関しては、規程を制定し、諸委員会を置き、積極的に定期的自己点検・評価を実施している。評価項目については米国のアクリディテーションを参考とし、独自の「学習成果を焦点にした向上・充実のための査定サイクル」を設定している。平成 11 年、平成 12 年と自己点検・評価報告書を中国・四国地区の高等学校に送付、公表するとともに、報告書に対する実地調査による懇談会等を実施している。

3 . 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

- ・ 「人間関係力養成支援プログラム」が平成 17 年度特色 GP に採択されており、教育内容の優秀さを示している。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 教育環境の整備状況については、情報機器と器楽関係設備が充実している。学生へのサポート体制が行き届いており、学生たちが施設を有効に利用している。特に、図書館蔵書とインターネットを併用した学習を可能とするため、閲覧室に無線 LAN スポットが設けられている点、図書館内専用のノート PC を希望者に無料で貸出している点等、学生の利用を促す試みがなされている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 保育者養成の教育目標を、高い資格取得率という形で実現している。
- ・ 短期大学が採用している「学習成果を焦点にした向上・充実のための査定サイクル」にもとづく教育の質的向上への努力の成果が退学者等の割合の減少に繋がっている。

評価領域 社会的活動

- ・ 学生の保育所等の施設へのボランティア活動、さらに地域の園児・児童を対象とした社会的活動が積極的に推進されている点は、「人間関係力養成」の学習成果の確認としても評価でき、学習成果がそのまま社会的活動として生かされている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 卒業生との接触が多少不足しているように思われる。アンケートを依頼することも必要であるが、卒業生の多くが専門職に就いていることを考えると、卒業後教育等を通して、継続したかわりを持ち続けることが望ましい。また、男子学生については、その指導や進路についての検討が必要であろう。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし